

1 年生 算数科学習指導案

日 時: 令和5年12月12日(火)

授業者:

場 所:

1 単元名 ひきざん

2 単元の目標 単元指導計画 別紙

3 本時について (4/7)

児童はこれまでに、10以下の数から1位数をひく減法、 $16-6$ や $15-3$ のような計算や3口の数の減法で、繰り下がりはないが10いくつから1位数をひく計算を学習してきた。本時は10いくつから繰り下がりのある計算の第4時である。今まで学習してきたことを生かし、10のまとまりを意識し、数の構成的な見方を意識することができるよう指導していきたい。

4 研究とのかかわり

研究テーマ

見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

【重点1】 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる数学的活動の明確化

【研究内容1】 自己の考えを深める学習活動の工夫

■ 自己の考えを確かに持ち、仲間と交流しあう場の設定

一人ひとりが自分の考えをもつことができるように、ブロックや丸図を用いた数学的活動を充実させる。また、各活動は、声に出しながら操作と言葉が一致するように行い、一人一人が表現する時間を確保し、自信をもってペア交流や全体交流に向かえるようにする。

【研究内容2】 ICTを活用した探究活動

■ 学びを深める ICTを活用した表現活動の工夫

終末にICT(スマイルネクスト・ぎふWebラーニング)を用い、多くの問題を解くことによって、知識・技能の定着・習熟を図る。

5 本時のねらい

10いくつから1位数を引いて、差が1位数になる減法の計算の仕方を通して、計算のしやすさをもとに、被減数または減数を分解すればよいことに気付き、減加法または減々法を選んで計算することができる。

6 本時の展開

	学習活動と予想される子どもの姿	指導・援助 評価
見通す	<p>1 問題を理解する。</p> <p>どんぐりが15こありました。そのうち8こをつかいました。のこりはなんこですか。</p> <p>・使いました。残りは～だから引き算だ。 ・しきは$15-8$になる。 ・15は、10のまとまりとばらの5。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分かっていること、求めることを見つけ、式に表すことができるようにする。 言葉と手の操作から、式が$15-8$になることを確認する。
仲間と習熟する	<p>2 本時の問いをつかむ。</p> <p>8をどこからとるといいだろう。</p> <p>3 個人追究をする。</p> <p>ブロックや丸図を使い、計算の仕方を考える。</p> <p>○減加法…$10-8+5$ はじめに15を10と5にわける。つぎに10から8をひいて2。2と5で7。だから、答えは7個です。</p> <p>○減々法…$15-5-3$ はじめに8を5と3にわける。つぎに15から5をひいて10。10から3をひいて7。だから、答えは7個です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> どうしていいかとまどっている児童には、ブロックを「10といくつ」に分けて提示し、減数を10からひくのか、ばらからひくのか、分かりやすい方を選ばせて、計算に見通しが持てるようにする。また、「どうしてそう考えようと思ったの？」と理由を問う。
自分で確かめる	<p>4 ペアで考えを交流する。</p> <p>・ペアの子が話したことを、もう片方がブロック操作や丸図を示して確かめる</p> <p>5 全体交流で、減加法・減々法のどちらでも計算できることを確認する。</p> <p>・10のまとまりをつかえばできる。</p> <p>6 本時の学習をまとめる。</p> <p>ひきやすいほうをわけてけいさんする。</p> <p>鉛筆問題 ○$13-6$ ○$16-8$ ○$15-6$ ○赤い帽子が7こあります。白い帽子が15こあります。どちらがなんこ多いでしょうか。 ICT(スマイルネクスト・ぎふWebラーニング)を用い、多くの問題を解く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを説明することが苦手な児童には、引き算の計算の仕方の話型を使って順番に話すことができるようにする。 早く出来た子には、もう一つの方法をやったり、さくらんぼ図に表したりするよう声をかける。 ICTを用い、多くの問題を解くことで、知識・技能の定着を図る。
		<p>【評価規準】 <知識・技能> 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算を減加法または減々法でできる。</p>